

# 哲學研究

第四十七卷 第三冊

第五百四十五號

昭和五十七年八月二十日發行

隨眠と帰屬の理論(承前・完)……………	山	内	得	立
共同体論における共同性の問題……………	中		久	郎
「分割法」考案……………	小	池	澄	夫
——プラトン後期對話篇への視点——				
主観と自発性……………	酒	井		潔
——ライブニッツ形而上学の根本問題——				
書評 川原栄峰				
『ハイデッガーの思惟』……………	竹	内		亨

彙報

京都大學文學部内  
京都哲學會

## 京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために左の事業を行う
  - (一) 會誌「哲學研究」を發行する
  - (二) 毎年公開講演會を開く
  - (三) 隨時研究會を開く
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく  
委員は京都大學文學部哲學科教官及び委員會において推薦したものに委嘱する
- 一、本會は賛助員若干名をおく 賛助員は會員の中から委員會が推薦する
- 一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けない 學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することができる
- 一、會員は會費として年三、六〇〇圓（會誌四冊分を含む）を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、規約の改正は委員會の決定による

## 京都哲學會役員 委員

池田秀三 伊藤邦一 上田照一 梶山好修 木曾平 酒井修 佐々木丞 清水善三 清水御代 竹原久 辻村公一 中村裕一 西谷裕一 長谷正裕 服部正明 平野俊二 藤澤令夫 宝月誠己 御牧克己 水垣治 本吉良 森口美都 山田都 吉田男 岡健二

会  
告

京都哲学会公開講演会予告

日時 十月三十日(土)午後一時半  
会場 京都大学文学部第七講義室

一、義務論理学の哲学的意味……………京都大学教授 山下正男

一、藝術作品の概念……………京都大学教授 新田博衛

(講演順)

※ 右終了後楽友会館にて懇談晩餐会を開きます(会費約四千元)。

※ 所属機関長宛出張許可依頼状御入用の方は京都哲学会までお申出下さい。

昭和五十七年八月

京  
都  
哲  
学  
会

り、「絶対無の場所」の経験が内に孕む直観的直証性をも論理的形式の中に掬い上げようとする努力は、文字通り現象学の可能性を徹底して追究する姿勢に相当するものであって、決して過少評価できない。

さて、どこまでもこの自覚に徹しようとする不退転の姿勢においてハイデッガーと親近なところがありながら、「哲学」の可能性に対して異なる見方を持つ西田の場合を、今、とりあげてみたのだが、そもそもハイデッガーの努力も「語られぬままに留まざるを得ぬかのもの (Jenes)」（*Aus der Erfahrung des Denkens*, S. 21; Neske, Pfullingen 1965.）を思索の言葉にまたらそうとする「言葉への途中 (Unterwegs zur Sprache)」であったわけであるし、また著者の『ハイデッガーの思惟』におけるトポロギー説明も、このハイデッガーの「たゆまぬ労苦のひとすじの道」を一緒に歩むことにおいて、思索の言葉と経験の真にブリミティヴな可能性の領域を自ら試掘したものである。実際、著者は「後書き」の末尾にこう述懐している。

しかし、それにしても、ハイデッガーの思惟は、けつきよく、語のきわめて複雑な意味において一個のアウトピオグラフィイなのだろうか？そして、私のこの本も？と。

(J)

（筆者 たけうち・とおる 高野山大学文学部〔倫理学〕・

竜谷大学経済学部〔倫理学〕非常勤講師）

### 前 号 目 次

睡眠と帰属の理論（承前）……………	山内得立
デカルトの自由意志論……………	西村嘉彦
相互作用論から見たキャリア分析……………	宝月 誠
——『ジャック・ローラー』の解釈 の試み——	
ヘーゲルの啓示宗教論……………	氷見 潔
——『精神現象学』における——	
書評 浜田義文『カント倫理学の成立——イギリス 道徳哲学及びルソー思想との関係』……………	小熊勢記

### 六 京都哲学会委員の異動

昭和五十七年四月一日をもって、新たに

清水御代明(しみず・みよあき)氏——心理学講座助教授に着任のため——、御牧克己(みまき・かつみ)氏——仏教学講座助教授に着任のため——が、京都哲学会委員に加はられた。なほ、五十五年四月一日をもって退任された佐々木亮氏の後任として、同日付をもって、竹原創一(たけはら・そういち)氏(基督教学講座助手に着任)が、委員に就任されてゐる。

前々号(五四三号)の誤植訂正

誤

七二頁二行 二の(26)

正

二の(23)

前号(五四四号)の誤植訂正

誤

一一頁三行

(De ente et essentia. De ente et essentia.

正

1.3°

1.3)°

一〇九頁一八行 一初捨象

一切捨象

一〇九頁二三行 見出す(1)°

見出す(10)°

### 告 白 文 論 号 次

古代キリスト教における好奇心の問題

..... 水 垣 渉

論理における原理的なもの

——アリストテレスの所論をめぐって——  
..... 大 出 晁

力学における決定論と意識の自由について

——情報構造としての意識——  
..... 品 川 嘉 也

デカルトにおける永遠真理創造説について

..... 平 松 希 伊 子

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區吉田京都大學文學部内京都哲學會（振替口座京都二一四〇三九番 京都哲學會）宛に規定の會費（年三、六〇〇圓、但し、會誌四冊分）をお拂込下さい

又會員への會誌送付、バックナンバー購入及び發賣に關する一切は東京都千代田區一番町一七番地創文社（振替口座東京二一九二四七二番）宛に願います  
一、會員の轉居・入退會の事務及び編輯事務の一切は京都哲學會宛に御通知下さい

一、本誌の編輯に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛にお送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田  
京都大學文學部内

昭和五十七年 八月十五日 印刷  
昭和五十七年 八月二十日 發行

編輯兼  
發行人 京都大學文學部内  
京都哲學會  
編輯担当 伊藤邦武

賣捌所 株式會社 創文社  
久保井理津男

印刷所

曉印刷株式會社  
東京都文京區関口一二四一八

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告掲載に關する件は「創文社」へ御申込下さい

一、本誌の御註文はすべて代金送料共（送料、一部六〇圓）前金にてお送り下さい

# THE JOURNAL OF PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

---

---

Vol. XLVII

August

1982

No. 3

---

---

Articles

*Anuśaya und die Theorie der Zurechnung (III)*

.....Tokuryu Yamauchi

*Some Theoretical Problems of 'Communityness'*

*in Community Study*

.....Hisao Naka

*Platonic Division Reassessed*

—*Towards the Fundamental of Plato's Later Dialogues*—

.....Sumio Koike

*Subjekt und Spontaneität*

—*Das Grundproblem der Leibnizschen Metaphysik*—

.....Kiyoshi Sakai

Book Review

*Eiho Kawahara: Heidegger No Shii (Heideggers Denken)*

.....Toru Takeuchi

Notes

Published by

**THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY**

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan